

平成19年度 事業報告書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

特定非営利活動法人 薬学共用試験センター

1 事業の成果

昨年度に引き続き平成21年度の薬学共用試験本実施に向けた準備を遂行した。CBTに関しては、開発中の各種関連ソフトを改良した上で、全国の薬系大学教員が作成した候補問題を出題して、本実施と同等規模で全国薬系大学にてトライアルを実施した(受験者:4年制4年次学生 8,362人)。これにより、ソフトの問題点、各大学でのネットワーク環境や試験運用における改善点等が明らかになった。また、作成した候補問題の妥当性や難易度を検証することもでき大きな成果が得られた。OSCEに関しては、全国共通の認識を持つ評価者や標準模擬患者を養成すべく講習会を計4回開催する一方、70薬系大学71学部にてトライアルが実施し、課題や評価項目、評価基準の妥当性、運用面での、全国共通の理念に則ったOSCE実施に向けての基盤が出来上がったと考えられる。

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
薬学生に対する共用試験の実施及び管理運営事業	第1回OSCE実施委員会を開る共用試験の催し、全国のOSCE担当者によるOSCE実施体制作りについて協議した。	平成19年4月15日	京都薬科大学	23人	全国薬系大学の教員(約80名)	413
薬学生に対する共用試験の実施及び管理運営事業	OSCE評価者養成伝達講習会を計3回開催し、評価基準を協議し、各大学において全国共通の認識を持つ評価者を養成する際の要点を伝達した。	(第1回)平成19年7月22日、(第2回)8月21日、(第3回)平成20年3月30日	第1回及び第2回:名城大学、第3回:共立薬科大学	70人	全国薬系大学の教員(約600名(1回当たり約200名))	673
薬学生に対する共用試験の実施及び管理運営事業	各薬系大学にてCBTトライアル実施に必要な種々の準備事項の概略説明の目的で、CBTトライアルに向けての説明会を開催した。	平成19年8月3日	共立薬科大学	7人	全国薬系大学の教員(約200名)	367
薬学生に対する共用試験の実施及び管理運営事業	第1回OSCE標準模擬患者(SP)養成伝達講習会を開催し、OSCEにおけるSPとしての役割や協議し、各大学においてSPを養成する際のポイントを確認しあった。	平成19年10月14日	神戸学院大学	13人	全国薬系大学の教員(約200名)	47
薬学生に対する共用試験の実施及び管理運営事業	全国の薬学生(4年生)の8,362人が受験生として参加した本番スケールのCBTトライアル(延べ99セット)を実施した。	平成19年11月1日～12月15日、及び、平成20年2月1日～2月8日	東京薬科大学ほか61薬系大学62学部	128人	全国薬系大学の教員(約200名)、及び薬学生(8,362名)	2,886
薬学生に対する共用試験の実施及び管理運営事業	全国の薬学生(主に4年制3年生と4年生)が受験生として参加した本番スケールのOSCEトライアル(延べ74回)を実施した。	平成19年4月22日～平成20年3月23日	全国63薬系大学64学部	20人	全国薬系大学の教員(約200名)、及び薬学生(約8,000名)	100